



Title	赤城泰先生
Author(s)	土屋, 博
Citation	基督教学, 37, 41-42
Issue Date	2002-07-04
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/46657
Type	other
File Information	37_41-42.pdf





赤城泰先生略歴

一九四五（昭和二〇年）帰国後、按手礼を受け日本基督教会牧師。

一九四六（昭和二年）東北学院中学部教諭。

一九四八（昭和二三年）第一回米國留学（イエール大学神学校）。

一九五〇（昭和二五年）東北学院大学助教授。

一九五七（昭和三二年）第二回米國留学（ユニオン神学校）。

一九六五（昭和四〇年）東北学院大学教授。

一九六八（昭和四三年）弘前学院院长、短期大学長。

一九七一（昭和四六年）弘前学院大学長。

一九七六（昭和五一年）北星学園大学長。

一九八四（昭和五九年）遺愛学院院长。

一九九五（平成七年）遺愛学院理事長。

二〇〇一（平成一三年）七月一日、函館中央病院で逝去（八一才）。

一九二〇（大正九年）三月二八日、東京に生まれる。

一九三六（昭和二年）日本基督教会中村伝道所（福島県相馬市）で受洗。

一九三七（昭和二年）東北学院中学部卒業。

日本神学校入学（東北学院神学部廃止のため）。

一九四二（昭和一七年）日本神学校卒業、直後徴兵（中国戦線へ）。

赤城 泰 先生

土屋 博

赤城泰先生には、北星学園大学々長として来道されて以来、北海道基督教学会のためにご助力いただき、やがて会長として、学会全般のご指導をお願いすることになりました。北星学園大学に対する先生のご貢献は、今日の状況とてらし合わせてみると、きわめて大きく注目すべきものであったことがわかりますが、北海道基督教学会へのご貢献もまた、それに劣るものではなく、こちらには確実にその成果が継承されています。

先生は聖職者としての使命を忠実に受けとめられながらも、同時に、学問的手続きをゆるがせにしない研究者としての情熱を最後まで保持しておられる方でした。基督教学会の活動にはそれら二つの契機が含まれていますので、先生は折にふれて適切な判断を下され、進むべき

方向を示唆して下さいました。それは、別な言い方をすれば、先生が「文化」に対して鋭い感覚をもち続けておられたということだと思います。

国際的な広い識見と地域に徹底的にコミットする誠実さとの両立も、先生のお人柄の顕著な特徴でした。学会誌の編集委員会が終わった後には、先生はわれわれとともに街へくり出し、一夕をすごされるのが常でした。今後そのような機会が永久に失われたことには、限りないさびしさを覚えます。しかしそれでもなおわれわれは、日本の北端で営まれるこの小さな集まりから、キリスト教もしくは宗教をめぐる本質的な問いかけが生まれてくることを期待し続けるでしょう。